

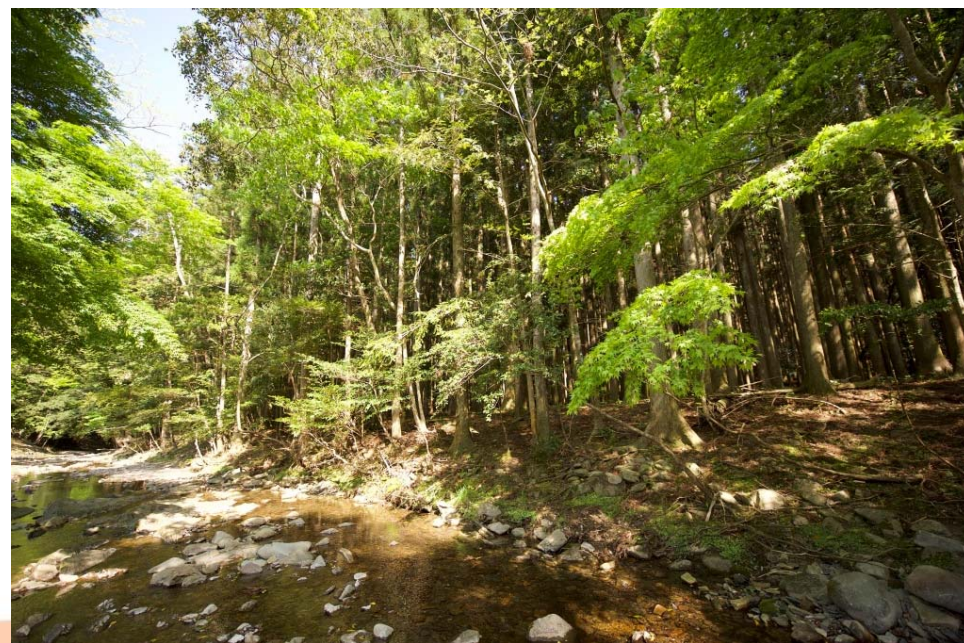
活動団体名	一般社団法人MIT
所在地	長崎県対馬市上県町佐須奈甲562-24
地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿	<ul style="list-style-type: none"> 対馬における森林資源の持続可能な利用による生態系の回復と、多様な森林関連のビジネスによる地域経済の活性化が両立できる島を目指す 多様な主体が環境負荷の低い小規模林業の担い手となり、実施が進むことで、森林資源が回復し、木材や林産物の利用・消費が進み地域循環の仕組みが構築される。そういった先進的な取組みが評価され、視察や研修の場となる。またトレッキングなどを目的とした観光客を誘致できるようになる 適切な森林管理により、自然の防災力の強化を行うとともに、気候変動影響による被害を回避・軽減する。副業や兼業的な林業は自由度の高い働き方を実現でき、未活用の島内人材やそのような働き方に憧れた移住者が対馬に定住するようになり、地域の担い手も増えることで、島も活性化する
地域の現状・課題	森林面積は対馬全体の89%を占めており、拡大造林期に植えられた人工林が現在伐期を迎えている。しかし、木材価格の低迷、経営者の高齢化、後継者不足などにより林業経営は厳しい状況にあり、民間の森林所有者が森林を適切に管理することができず、放置された森が多く存在している。現在の人口は30,379人で高齢化率は34%以上となっており、2025年にはほとんどの小学校区で高齢化率が50%を超える。生態系サービスに大きく依存した一次産業が基幹産業となる対馬の経済では、担い手がいなければ、地域社会も維持できなくなることが懸念される。
地域が持つ資源	<ul style="list-style-type: none"> 未利用・未整備の民有林(人工林・天然林)、林産物 未活用の人的資源(漁師の時化の日、シルバー、地域づくり人材)
取組内容	事業主体として「対馬の森づくり協議会(仮称)」を設置し、小規模林業の仕組みづくりとそれに付随した森林資源の利活用の検討を行う
地域循環共生圏を 実践することで想定 される効果	<p>(環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境保全型の森づくりを行うことで、生物多様性が高くなる 未整備林は本事業のモデルを参考に管理が展開される <p>(経済)</p> <ul style="list-style-type: none"> 森づくりに資する収益事業が増え地域の経済が持続可能な形で潤う 生産物の地産地消が図られ、地域経済の循環の仕組みが構築できる <p>(社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> 森づくりの担い手(副業や兼業も含む)が増える 多様な主体が連携した成功事例として様々な課題解決の手本となる



対馬の景観



対馬の森の林内の様子1



対馬の森の林内の様子2